

成田市教育委員会会議議事録

令和2年3月成田市教育委員会会議定例会

期 日 令和2年3月25日 開会：午後2時 閉会：午後3時25分

会 場 成田市役所5階 503会議室

教育長及び出席委員

教 育 長	関 川 義 雄
委 員 (教育長職務代理者)	佐 藤 勲
委 員	高 木 久美子
委 員	片 岡 佳 苗

出席職員

教育部長	神 山 金 男
教育部担当次長	石 毛 直 樹
教育総務課長	松 島 真 弓
学校施設課長	篠 塚 正 人
学務課長	竹 尾 裕 之
教育指導課長	藤 田 総
生涯学習課長	神 崎 良 浩
学校給食センター所長	椿 弘 志
公民館長	谷 平 裕 美
図書館長	田 中 美 季
教育総務課長補佐 (書記)	篠 塚 康 孝

傍聴人：0人

1. 教育長開会宣言

2. 署名委員の指名 佐藤勲委員、高木久美子委員

3. 前回議事録の承認

4. 教育長報告

主催事業等

○2月27日、3月2日・13日 臨時校長会議について

この1か月間に3回の臨時校長会議を開催いたしました。全て新型コロナウイルス感染防止に関する学校の対応についてです。2月27日は新型コロナウイルスが全国的に蔓延してきた状況に鑑み、児童生徒の感染予防策について、また3月に実施する学校行事の在り方について教育委員会の考え方を伝え、各学校からの意見を求めました。

また、3月2日の会議では、2月27日に実施したばかりの会議の後、安倍総理から「3月2日から全国一斉休校」という緊急の要請があり、この要請に対する本市の対応について、再度、臨時校長会議を開催することにしました。本市では、事前準備も考慮し、3月4日から休校措置とすること、また、その期間についても、要請のあった3月2日から2週間の期間を考慮した3月13日までとしたことを伝え、各校の理解と協力をお願いしました。この時点では、途中、生徒の登校日を設けたいという校長の意見もありましたが、一斉休校の意味がないとして認めませんでした。

また、3月13日の会議では、翌週、16日からの学校再開について、成田市では、何故、学校を再開するのか、また、学校ではどのような準備をして子どもたちを迎え入れるのか、具体的な方策について周知しました。再開について不安視する声が多くあるのかと思いましたが、そうではなく、市の決定に従い協力していくという姿勢が感じられました。むしろ、具体的な指導内容で、いくつか質問があった程度でした。

短期間に何度も臨時校長会議を開催しましたが、この間、学校を休みにするか否かという非常に重要な判断を下さなければならない大きな問題と向き合っていました。休校が長引けば、子どもたちだけでなく、各家庭にも甚大な影響が及びます。私は、ただ要請に従って感染拡大が収まるのを待つだけではなく、この状況下で、どう工夫すれば学校を再開できるのかという視点で考えていくべきだと思っていました。何故なら、このまま何もしなければ、4月の学校

再開もどうなるかわからない状況だと思ったからです。何といても、学校は年度末がとても大事な時期です。子どもたちの学習のやり残しの心配もありました。しかし県内の学校で再開するところは一つもなく本当に悩みました。結果的に、岡本委員さんの最初のご助言を参考にいたしまして、しっかりとした対策を講じれば、再開は可能と判断させていただきました。まだまだ、不安な気持ちはありますが、何とか年度末を迎えられたという思いです。ご心配をおかけしました。

○3月4日～6日 校長目標申告について

市内の全小中義務教育学校の校長先生方と面談し、今年度各校で実践した教育の最終申告を伺いました。どの学校もそれぞれ創意工夫した教育実践を行っており、成果の出ている学校が多くありました。また、教職員の多忙化解消の問題についても、それぞれ努力されていたようですが、教員の職務に終わりはなく、意識改革を進めたくても最終的には各個人の判断に委ねざるを得ない現状があることを改めて感じた次第です。

また、学校において校長のリーダーシップはとても大事ですが、それを支える教職員や地域・保護者の協力無くしてよい学校経営はできません。一部の批判的な意見にも真摯に耳を傾け、ひたむきに学校改善に取り組む校長であってほしいと思いました。

○3月13日 成田市ふれあいルーム21修了の会について

今年度の修了の会は、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、市内の学校の卒業式と同じように来賓の方の出席はありませんでしたが、主催者として、市長と私は出席させていただきました。ここに来ていつも思うのは、一人一人に渡す修了証書が、一人一人皆違い、その言葉に思いが込められていることです。このことが「ふれあいルーム21修了の会」の良さであると思います。本来、どの学校においても、本当は一人一人にこうした言葉かけが必要なのです。「ふれあいルーム21」には教育の原点があるように思っています。

○3月16日 令和元年度第3回学区審議会について

本審議会については、この会議の報告事項の中で学務課長から詳しい報告がありますので、私からの報告は省略させていただきたいと思います。

○3月16日 校長人事面接について

年度末人事異動が確定し、その結果を改めて各校の校長に文書で示しました。教育委員の

皆様にも前回の臨時会議でお示したところですが、定数配置の中で本務者が配置できず、講師が入る学校がいくつもあります。また、今後、産休・育休等で本務者が学校を離れる際、代わって代替講師が配置できるのかどうか、講師不足の現状から不安もあります。しかし、現場で子どもと接する教職員の皆さんには、いつでも一人一人の子どもに心を寄せて、どの子にも丁寧な指導ができるよう心掛けてほしいと思っています。そのためには、私たち教育委員会事務局も、学校職員と気持ちを同じにして子どもたちのより良い成長を願い、できる限りの支援をしていきたいと思っています。

○3月17日 第10回大栄地区小中一貫教育準備委員会について

この会議も新型コロナウイルスの感染予防策を講じて実施しました。いつもなら、みんなでテーブルを囲んでお互いの顔が見える位置で話し合いをするのですが、この日は、一人一人の間隔を空け、事務局と準備委員が互いに距離を取って向き合う形で実施しました。まるで議会の議場で質問や答弁をするような感覚でしたが、皆さん状況をよく理解していただいて短時間で会議を終了いたしました。今回は各専門部で協議した内容の確認及びこれに関する質疑が中心の会議でした。校舎の建築も着々と進み、次第に形となって見え始めてきています。1年後、子どもたちが新しい校舎で意欲をもって学べるよう、力を尽くしたいと思います。

○3月18日 令和元年度第2回成田市公民館運営審議会について

公民館の使用予約について、旧成田市の公民館と旧下総、大栄の公民館とでは、予約時間の取り方に違いがあり、合併後一つの市になったにもかかわらず、これまで統一されていなかったことから、今後はより多くの方が効率よく公民館を使用できるように、全館統一したやり方で時間予約できるような方策を示し、審議会に諮問しておりました。この日の審議会事務局案に全員の賛成をいただきました。使用料については、現在、各館まちまちですが、これについては、今後市全体として公共施設の使用料の見直しをする予定ですので、その折、公民館についても新たな料金設定をしていきたいと考えています。

なお、新しい予約方法による予約は、システム改修に時間が必要なことから4月からの運用は難しく、10月以降になるスケジュールを示させていただきました。

市議会

○2月21日～3月19日 令和2年3月定例会について

新年度予算案を議会に提案するという一方で、議会開会日の始めに、市長が施政方針演説を

し、これを受けて議員各派代表の質問があるというのが3月定例会の流れです。教育委員会も各派の代表質問を受け、これに回答したところです。また、一般質問でもたくさんの質問を頂戴しました。その内容については、一般の方もテレビ中継などで議場に足を運ばなくても見られる状況になっておりますので、ここでは、その詳細についてのご報告は省略させていただきますが、教育部全体でよく考え、答弁の検討をした後、議場でお答えしております。

なお、本会議では、執行部の提案した議案の全てについて、全会一致もしくは賛成多数で可決されました。

○3月5日 教育民生常任委員会

教育委員会から今議会に提案した議案は2件で「成田市立義務教育学校設置条例の一部を改正するについて」と、「成田市学校給食センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正するについて」でした。それぞれ、常任委員会では賛成多数で、あるいは全会一致で、可決すべきものと決し、本会議でも同様に議決されました。内容については、既に教育委員会会議でも提案させていただいておりますので、ここでは省略させていただきます。

○3月10日～12日 予算特別委員会について

来年度予算案の審議を行いました。教育費関係では多くの質問が出されましたが、何故、どんな目的でこの事業を実施するのか、その費用対効果はどうか等々、基本的なことをしっかり押さえておくことが大切で、各課長がしっかり答えてくれましたが、どんな質問が出されても、数値的な内容以外は原稿を見ずに答えるぐらいの気持ちで臨むと相手に思いが伝わるようです。これは、教育委員会だけの問題ではありませんが、聞かれたことに簡潔に回答できるようになると議員さんとも歯切れのいいやりとりができるようになります。予算委員会ではどんな質問が飛び出すかわからないこともあり、緊張はしますが、思いはしっかり伝えたいものです。

なお、本委員会では、一般会計予算はじめ、全ての議案が承認されました。

その他

○2月13日 令和元年度千葉県都市教育長協議会第3回役員会について

私はこれまで県の都市教育長協議会の幹事をしておりましたことから、この会議に出席してまいりました。現在、関東地区都市教育長協議会の会長を印西市の大木教育長が引き受けてくださっていることから、同じ北総地区内各市で印西市に協力していくという約束をしています。この協議会は私にとっても自分自身の唯一の研修の場でもあります。積極的に参加して各市の

教育長と意見交換をしてみたいと思っています。

○2月14日 第8回成田市副校長・教頭研修会について

この時点ではまだ新型コロナウイルス問題が国内にあまり広がっていなかったため、卒業式の実施についての留意事項を話したり、いじめ問題への対応について、初期対応の段階でしっかり子どもの声に耳を傾けてほしい事等の話をしてみたいです。校長会議もそうですが、この教頭会議も、教育委員会はいつも指示、伝達のみで、意見交換までに至らないのが、私の唯一最大の不満です。言いたいことがあっても言えない雰囲気ではいけないし、教頭先生方も本音で話したいことがあるのではないかと、それを聞きたい、そして議論したい。次年度以降、何とか改善を図ればよいなと思っています。

○2月16日 第32回 成田市青少年交流綱引き大会について

この大会も32回目となりました。新型コロナウイルス拡大がまさに始まろうとしていた矢先でしたが、何とか開催できました。ここ数年、綱引き大会に対する選手、指導者の意欲の高まりが感じられ、大会前の練習試合にも熱が入り過ぎているかと思えるヒートアップぶりも懸念される状況ですが、今大会も95チーム1, 572名の子どもたちが集まりました。役員や応援の方も含めるとどれだけの方がおいでになったのでしょうか。体育館の2階は、座る席はもちろん、立ち見も難しい状況になっていました。そんな中、今年は下総アレキサンドライトが通算2度目の優勝を果たしました。チームワークも見事で、全ての試合で安定した力を発揮していたように見えました。2位は、美郷台カイザー、3位が向台サルビーという順番でした。この大会では、普段の練習に対する学校職員の関わり方をどうするか、学校間で意識や考え方に差があり、PTA関係者からは、もっと学校の協力がほしいといったお話を伺うこともあります。少なくとも学校間格差は解消させたいと思っています。

○2月26日 第21回 全国中学選抜卓球大会出場激励会について

西中学校の卓球部男子が県の新人戦で優勝し、日本卓球連盟主催の全国選抜卓球大会に出場できることになり、その激励会を開催しました。女子も準優勝したということで関東大会には出場できるということでした。男女そろって関東大会に行けるとするのは本当に素晴らしいことです。残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大会は中止となり、実際の出場はかないませんでした。選手の頑張りが夏の大会で花開くことを期待したいと思います。

○2月29日 成田市レクリエーション協会設立20周年記念式典について

この記念式典も、本来なら祝賀会も引き続き行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で記念式典のみ実施することになりました。記念式典では、レクリエーション協会設立に尽力された方々の表彰がありましたが、皆さん、大変姿勢の良い方ばかりで、普段からレクリエーション指導だけでなく、自らも軽スポーツなどを通して運動に親しんでおられる方なのだということを実感させられました。誰でも気軽に運動に親しむことでふれあいの輪を広げ、ひいては健康寿命の引き上げに貢献なさっている方々ばかりでしたので、今後のご活躍をお祈りしたいということ、私も祝辞の中で述べさせていただきました。

○3月9日 一般財団法人印旛教育会館 令和元年度第2回評議員会について

印旛教育会館の次年度の事業計画並びに予算案の審議をしました。今回は、特に、印旛教育会館で障がいのある方を会館職員として採用するため、教育会館で候補者に仕事の体験をさせたとのことで、この方の仕事ぶり等を小館専務理事から紹介していただきました。私をはじめ評議員は、会館の管理費を見直し、現在、業務委託している管理事業の一部を、新たに採用した者に任せるなどの工夫改善を行うなどして一人分の人件費として充てることなど、前回の説明と同様の説明を受け、改めて、新たな取り組みに対して満場一致で教育会館での障がい者雇用を承認いたしました。

○3月9日 高齢者叙勲伝達について

高岡小学校を最後に定年退職されました、香取市佐原の老舗柏屋の近くにお住いの篠塚哲夫先生に瑞宝双光章をお渡ししてまいりました。篠塚先生はもともと香取地区の教員でしたが、最後の勤務校が高岡小学校ということで、成田市で叙勲申請したものです。大変お元気で、また、お話し好きの方のようで、私が勲章を伝達させていただいた後も、ずいぶんいろいろなお話をなさってくださいました。帰る時には奥にいらした奥様も出てこられてご挨拶いただきました。お二人ともご健康の様子で、これからもますますお元気でお過ごしくださることをお祈りし、伝達を終えました。

○3月23日 本城小共同調理場視察について

今年度末で本城小学校から異動することが内定している瀬尾栄養教諭から、本城小最後の給食を食べてほしいというお話があり、試食してきました。本城小に学校給食共同調理場を開設した時の栄養教諭で、「ペロリ賞」などのアイデアを生み出した当時校長の竹尾学務課長と

共に食育を熱心に進められ、給食残菜率を驚異的な数値に抑えるなどの実績を残されました。この日の給食もとても美味しくいただくことができました。来年度は美郷台小の共同調理場が開設されます。時間はかかってしまいますが、少しずつ親子方式の共同調理場が増えることで、子どもたちの笑顔も増えていくように思います。今後も順調に施設整備ができることを願っています。

○3月24日 成田POPラン大会第3回実行委員会について

今年度第3回目の実行委員会が開催され、出席してまいりました。内容は今年度の大会事業報告並びに大会収支決算、そして次年度の大会要項案について審議しました。特に課題となる事柄はありませんでしたが、参加者からバナナとかおにぎりの販売があればいいという声が多くあったと聞いています。競技場近くのコンビニが無くなってしまって不便を感じているのかもしれない。次回の大会では、何とか改善できるようにしたいとの事務局の返事でした。

○3月24日 令和元年度 成田スポーツフェスティバル第2回実行委員会について

POPラン大会実行委員会に続いて、スポーツフェスティバル実行委員会に出席しました。今年度のスポーツフェスティバルは、台風19号の接近に伴う暴風雨が予想されたため、中止となりました。ただ、予めお願いしていたゲスト出演の方々には突然の決定だったため、謝礼等はお支払いしたとのことでした。その他、消耗品についても、大会が中止になってもすでに物品が購入済みで返金できない状況だということでした。

○3月25日 公益財団法人印旛郡市文化財センター第107回理事会について

本日の午前中、佐倉市にあります印旛郡市文化財センターで開催されました。議案は令和元年度事業計画の変更及び収支補正予算について、令和2年度事業計画及び収支予算について、そして、公益財団法人印旛郡市文化財センター特定費用準備資金等取扱規程の制定及び新規科目の設定についての3件で、全議案とも可決されました。この後、事務局から3件の報告を受け会議を終了しました。

以上、報告とさせていただきます。

《教育長報告に対する意見・質疑》

佐藤委員：まず、先般の学校再開と、首相の要請を受けても直ぐには臨時休校にはせず、2日

間、学校を開いてくださったことの判断について、周りの自治体と同じようにすれば批判からは免れるであろうとは思いましたが、その中で、子どもたちの思いを鑑み、きちんとしたエビデンスに基づいて、大丈夫だろうということで、教育長はじめ苦しい判断をされた中で学校を再開していただいたことに、本当にありがたいと思いました。学校再開にあたっては、とにかく市内の児童生徒等に感染者が出ないようにと祈るような思いでした。幸いにして、昨日、無事に修了の日を迎えられました。近くの津富浦小の児童が元気に登校する姿や、校庭で遊ぶ元気な声を聞いて、本当にありがたいなと思ったことをお伝えしたいと思います。

また、本城小学校の共同調理場のことですが、一昨年ですか、学校訪問の時に給食を食べましたが、その時にメロンが出ました。その時の栄養教諭が大栄のメロン農家と交渉して、はね出しのメロンを格安で購入したということで、そこまで努力をされているのだなと感動したのを覚えています。それと当時の校長先生が家庭的に恵まれない子どもたちは給食で栄養を取っていますといった、半分冗談とも取れないような話をされていました。本城小の美味しい給食を食べて、そのようなことを思い出しました。

高木委員：新型コロナウイルス感染症に関してですが、周りの保護者の方から学校を再開したことについては、大変ありがたいという意見が本当にたくさん聞かれて、私も保育園を管理運営していますので、本当にありがたく思いました。ただ、まだまだ、この状況が続いていくのだなということは思っているところですが、私自身、新型コロナウイルスのことでだいぶ疲れてきておまして、このまま緊張感を維持していくことは、とても大変なことだと思います。これから新年度が始まりますが、人事異動がありますので、それぞれの学校は新たな体制となり、大きな学校行事も予定されています。例えば、美郷台小では運動会を5月の下旬に行う予定だと聞いていますが、授業の実施方法や学校行事について、学校側での判断で行うようになるのか、教育委員会としてどのような方向性を示していくのか伺います。

また、学校の卒業式について、卒園児から成田小の卒業式の様子を伺ったところ、来賓の出席等はありませんでしたが、子どもたちは寂しかったというようなことは言っておりませんでした。成田小の場合は、また校長先生が卒業生のために歌を歌ってくれたようで、2番まで歌ってくれたと子どもたちは喜んで楽しそうに話をしてくれました。市内の小中学校での卒業式の様子はどうだったのか、教えていただきたいと思います。

議 長：今後の方向性につきましては、基本的にこれまでの対応を踏襲するということになります。問題は、一つは部活動をどうするかということで、部活動について、どういうふうにすればできるか。感染の可能性の高いことについては、これまでどおり行わないという方針です。まだ、規制を緩められるような状況にはなっていないと考えておりますので、授業の仕方であるとか学校再開時に学校へ通知した内容を基に、それに準じて実施していくということです。今、お話がありました5月の運動会については、私は、教育委員会として、好ましくないとはっきりと伝えるつもりでおります。このほかにも、これはこうした方がいいのではといったことがありましたら、是非、ご提案いただきたいと思います。

また、卒業式については、何校か聞いておりますが、卒業生と保護者と学校の先生方だけで行ったけれど、とてもしつとりと出来たし、感動も味わえ、非常に良い卒業式であったということでした。私たち教育委員会職員も、実際にその場へ行きたかったのですが、各学校について外部の方を入れないということで実施しておりますので、学校から聞いた話をお話しました。学務課長、教育指導課長、聞いている話があればお願いします。

藤田教育指導課長：保護者の方から「市長への手紙」をいただきました。「ある小学校の卒業式がとても感動的であった。開催していただけてよかったです。」というご意見でした。

竹尾学務課長：私がかつていた学校の親御さんの方から、お話を伺いまして、遠山中ですが、とても良い卒業式だったということでした。最後に集合写真を撮ったところ、子どもたちが非常にいい顔をしていたということでした。在校生がいない中、卒業生と教職員そして保護者といった限られた人と時間での卒業式ではありましたが、良い思い出となり満足していますという声をいただきました。同様に、小学校の方からも、そういった声を聞いております。

議 長：みどり学園の校長先生から伺った話ですが、在校生が出席できないので、先生方で歌を一生懸命に練習して、卒業生の前で歌を歌ってあげたということでした。それぞれ、限られた範囲の中で一生懸命にやってくれたなという思いです。

片岡委員：私も、新型コロナウイルスに関して、学校の対応、本当にありがたく思っています。

学校再開のご判断について、本当に素晴らしかったと何人もの友達から聞いています。県内の他市町村は臨時休校を継続していましたので、本当に英断であったと思います。感謝申し上げます。ありがとうございました。給食のことですが、臨時休校に合わせて給食も急に中止することになりましたので、発注していたもの等、大丈夫だったのかなと気になりました。4月からのことは、ただいまお聞きして、よくわかりました。

椿学校給食センター所長：臨時休校に入ったのは3月4日ですが、4日と5日の食材について、多少、ロスが出ました。その中で、加工していない柑橘類、清見オレンジ871個、デコポン539個については、特別養護老人ホームや介護老人保健施設等において活用していただきました。そのほかの食材、例えば冷蔵の魚等については、受け渡しにおける衛生上の理由等から、廃棄とさせていただきます。

5. 議 事

(1) 議 案

議案第1号及び議案第2号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開により審議する。

<これより非公開>

議案第1号 「成田市教育委員会職員の人事異動について」

《審議結果》

承 認

議案第2号 「成田市健康管理医の委嘱について」

藤田教育指導課長：

議案第2号 成田市健康管理医の委嘱について、ご説明いたします。健康管理医の委嘱につきましては、成田市立学校職員安全衛生管理規程第7条第1項において、「学校職員数50人以上の学校に健康管理医を置く」と定められております。これにより、令和2年度の職員数が配置

基準に達する見込みとなりました成田小学校、吾妻小学校、公津の杜小学校、公津の杜中学校、下総みどり学園の5校に健康管理医を委嘱しようとするものです。本件の委嘱につきましては、成田市立学校職員安全衛生管理規程第7条第2項により、学校医のうちから、校長の推薦を受けた学校医について、教育委員会が委嘱することになります。学校医の任期は、令和2年3月31日で満了となり、令和2年4月1日から新たに委嘱いたします。その学校医のうちから、各校長の推薦を受けた方々がお手元の資料になります。

成田小学校は 大田 暁 医師、吾妻小学校は 鳥居 敏明 医師、公津の杜小学校は 黒田 央文 医師、公津の杜中学校は 渡邊 剛毅 医師、下総みどり学園は 矢野 潔 医師、以上5名を健康管理医に委嘱しようとするものでございます。

なお、任期につきましては、令和2年4月1日から令和4年3月31日までとなります。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

議 長：ただ今の提案に関して、ご質問等はございますか。

特にないようですので、議案第2号「成田市健康管理医の委嘱について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

<非公開を解く>

(2) 報告事項

報告第1号 「令和元年度 第3回 学区審議会の報告について」

竹尾学務課長：

報告第1号 令和元年度第3回学区審議会の報告についてであります。3月16日午前10時より今年度第3回目の学区審議会を開催いたしました。本審議会では、「指定学校変更・区域外就学の手続きについて」、「指定学校変更・区域外就学の状況について」、「豊住小学校の教育活動・教育環境に関するアンケートについて」の3件について報告いたしました。

報告第1号、指定学校変更・区域外就学の手続きにつきましては、部活動による指定学校変更について、令和3年度は、教室数に余裕がないことから、成田中学校で受け入れを引き続き制限することを報告いたしました。

報告第2号、指定学校変更・区域外就学の状況につきましては、令和元年度中の指定学校変更・区域外就学の状況並びに令和2年度中学校新1年生の部活動による指定学校変更の状況について報告いたしました。令和元年度の指定学校変更については、小学校において160名、中学校において101名、合計261名の児童生徒が指定学校からの変更をしている状況にあります。また、部活動による指定学校変更については、6名の生徒が指定学校変更を申立て、受理をしております。

報告第3号、豊住小学校の教育活動・教育環境に関するアンケートにつきましては、豊住小学校に在籍する児童の保護者を対象としたアンケート結果の報告を行いまして、委員の皆様からご意見を頂戴しました。

本アンケートは豊住中学校の統合から10年が経ち、保護者の皆様のご意見を頂戴しながら、今後の豊住小学校の教育活動・教育環境の充実を目指すために実施いたしました。

結果の概要ですが、現在の豊住小学校の教育活動については、おおむね肯定的に捉えている回答が多くあり、児童数が減少することに対し、不安を感じる声もございましたが、その反面、少人数のメリットを生かした教育活動に対して肯定的な評価をする声もございました。

このような中、教育委員会といたしましては、小規模校の特色を生かしながら、児童数の確保を目指し、市内全域からの通学が可能となる「小規模特認校」の導入について考えていきたい意向をお示しして、委員の皆様からのご意見を伺いました。委員の皆様からいただいた主な発言内容は、資料のとおりです。

以上、令和元年度第3回学区審議会の報告でございます。

《報告第1号に対する質疑》

佐藤委員：豊住小学校を市内全域を対象とした小規模特認校にするというアイデアに関しては、私も素晴らしいアイデアだと思います。豊住小学校に学校訪問に行ったとき、教育環境も素晴らしいし、設備も整っていると思いました。それでも、3人で音楽の授業を行っている学年もあつたりしましたので、これはちょっと改善しないと子どもたちのために良くないなと思いました。市内の各学校の中には、大きな学校にはなかなか

馴染めないという子どももいるだろうし、豊住小学校のような環境の中で学ばば伸びるという子どももいるかも知れません。

高木委員：豊住小学校の小規模特認校に関する話がありましたが、私は賛成でも反対でもありません。ただし、今からこの取り組みを始めて、豊住小学校の児童数がどの程度増えるのかということを見ると、今からやって効果があるのか、また、実際に児童が少ない中で、どのようなアピールができるのかということを見ると、もう遅いのではないのかなと思います。むしろ、八生小学校だとか遠山小学校だとか、もう少し児童がいる学校で、児童数が減少していく中で、今からそういった取り組みをして、これから先の児童数を確保していくということを考えていくことはいいと思います。

竹尾学務課長：ただいま委員がおっしゃられたことは、よくわかります。児童生徒数の推計を基に考えますと、やはり豊住小学校につきましては、令和7年までの状況は減少が著しいと思われます。八生小学校につきましては、児童数の増加が見込まれています。遠山小学校につきましても、今後、地域において開発が進む可能性がありますので、児童数の増加が見込まれます。そういった中で、豊住小学校については、学区に1つ小学校を残すという考えがありますので、現状で何もしなければ、このまま児童数の減少が進んでいってしまうということになります。そのようなことから、学区審議会の委員の皆様にお諮りをしました。委員の皆様からは、小規模特認校にしたからといって児童数が増えるのだろうかというご意見もいただきました。ですから、例えば、教育の目玉としてICTや英語教育を充実させるなどといったことをアピールしながら、児童数を確保していき、存続を目指していきたいと考えております。また、コミュニティバスの活用等につきましても、市長部局の担当課とも連携を図り、力を貸していただけるのかといったようなことを模索しながら、豊住小学校について小規模特認校を目指していきたいと考えております。

高木委員：豊住小学校と一緒に、八生小学校や遠山小学校についても小規模特認校に指定する

という考えはありますか。

竹尾学務課長：八生小学校や遠山小学校については、児童数の増加や開発等が見込まれておりますので、もう少し児童数の推計を見守りたいということがあります。

議長：地区に1つの学校という基本的な考え方というのは、学校適正配置の計画を作った段階からありますので、できるだけ魅力のある学校にできるように頑張りたいと思います。

報告第2号 「令和元年度 成田市学力調査の結果について」

藤田教育指導課長：

報告第2号 令和元年度 成田市学力調査の結果について、1月15日及び16日に実施いたしました成田市学力調査の結果概要をご説明いたします。

まず、3ページから6ページをご覧ください。成田市の結果についてですが、小学校には赤い数値、中学校には青い数値が多く見受けられます。赤い数値は、全国の正答率を上回っている教科、青い数値は、目標値を下回っている教科となります。このことから、今年度の結果としては、小学校は全体として良好であり、中学校には課題が見られることがわかります。小学校ではどの学年、どの教科においても、全国平均を上回っているものが多くあり、昨年度、比較的目標値に届かなかった高学年においても点数が下がることなく、高い水準をキープしております。国語科、算数科においては、小学校全学年において、全国平均を上回っております。また、今まで課題であった、算数科における思考力についても、全国平均を上回ることができております。そのような中、5年生の理科、社会科においては、他教科、他学年と比較すると、目標値は上回っているものの、全国平均には届いていない状況です。社会科の思考・判断や知識・理解においては、目標値を下回っており、改善の必要があると思われます。

中学校につきましては、まず、注目していただきたいのが、本市で特に力を入れている英語科についてです。中1、中2ともに全国平均を上回っており、さらに観点別に見ても、全ての観点において全国平均を上回りました。国語科については、全国平均には満たないものの、

目標値については上回っており、一定の定着は図られているものと思われます。中1の理科については、関心・意欲・態度や技能に関して全国平均を上回る結果が見られました。しかし、社会科、数学科においては、中1、中2ともに目標値を下回っており、中2においては、数学科、理科、社会科の基礎的な問題、活用問題についても課題が多く見られました。

次に、7ページから10ページですが、こちらは経年変化からの考察になります。矢印の色については、黄色が標準スコアよりも上の値、青が下の値を示しています。また、矢印の向きにより、上昇傾向か下降傾向か、わかるようになっております。小学校においては、小学校5年生以外は上昇傾向を示しているものが多く、特に、小4、小6に上昇傾向が見られます。しかし、中学校は上昇傾向が少なく、中2の英語科においては、スコアとしては標準スコアよりも高いものの、傾向としては下降しており、今後の動きを注視する必要があると考えます。このように、小学校では特に5年生の理科・社会、中学校では英語以外の教科について、全国平均を超えることができるよう力を入れていくことが必要となると考えております。教育指導課では、成田市学校教育振興計画「輝くみらいNARITA教育プラン」を柱とした「教育指導課の学力向上の重点」を14ページのとおり計画、実施しております。具体的な取り組みは、15ページから17ページに掲載しております。特に、現在は、若年層教員が増えていることから、指導主事が学校へ行き、授業を直接参観しながら指導力向上を目的に実践的なアドバイスを行ったり、学習規律の徹底を図ったりしております。

19ページ以降に掲載している家庭向けリーフレットにつきましては、今月上旬に各学校に送付しております。例年ですと、保護者会等で配布を呼びかけておりますが、新型コロナウイルス感染予防の観点から、今年度は各学校の状況にあわせた対応としております。

今後、本結果を更に詳しく分析し、市内児童生徒の学力の傾向を明らかにするとともに、研修会等を通じて現場の教職員に適切な助言を行ってまいります。報告は以上でございます。

《報告第2号に対する質疑》

佐藤委員：この「成田市学力調査」というのは、本市独自に問題を作成した学力調査ですか。

藤田教育指導課長：委託した業者の方で作成したものでございます。

高木委員：素晴らしい資料をいただいて、全国平均を上回る結果もたくさんあったのですが、子どもたちの学力に重要なこととして、教職員の資質・能力があると思います。教職員の指導能力については、このような数値化をすることはできませんか。

竹尾学務課長：「成田市学力調査」につきましては、全国のいろいろなところで、同じ問題で調査が実施されていますので、その中での成田市の位置づけを把握できるということがあります。また、1月に実施をすることで、12月までの児童生徒の学習について調査をするとともに、教員の学習指導の振り返りにも繋がる、数値化ということはやや難しいですが、先生方は自分の指導はどうだったのかなと振り返ることができる、ということがございます。

議長：学力は教師の指導の資質だけではなくて、子ども自身の資質にもかかわっているものなので、なかなか一概には言えないところがありますが、少なくとも、教師自身がしっかりと自身の指導を振り返り、より良い指導を心掛けていただきたいと思います。また、15ページにありますが、相互実践研修の実施ということで、指導主事が2年目、3年目の教師や講師に対して、マンツーマンの指導を行っております。ただし、人数が多いので、実施の回数等なかなか行き渡っていないというのが課題と言えます。

片岡委員：中学校の方ですが、数学、理科、社会で青字が多くなっていますので、何か共通した課題があるのかなと気になりました。毎年、学力調査の結果を見させていただきますが、調査の点数には表れない部分でも、先生が褒めて伸ばしてあげる等、一人一人のお子さんに対して、しっかり対応をしていただきたいと思います。

報告第3号 「成田市ロードレース大会について」

藤田教育指導課長：

報告第3号 成田市のロードレース大会について、ご説明いたします。ロードレース大会は、日頃の運動活動の成果を試すとともに、体力の向上をめざすことを目標に40年前から行われ

てきました。中学校のロードレース大会については、大会の開催時期が部活動の新人戦や三者面談等の行事と重なり、部活動に参加する生徒が出場することが多いことから、選手や教員にとって両立が難しい時期であるとして、平成29年度に廃止されております。小学校のロードレース大会についても、校内マラソン大会を実施しており、朝練など教師の指導に対する負担から廃止を望む声がありました。

このようなことから、本年度のロードレース大会終了後に各校から意見をいただき、お手元の資料にまとめましたのでご報告いたします。ロードレース大会の廃止を希望が16校、継続を希望が6校、中立的な意見が3校となりました。継続の意見の中には、「大会があることで、子どもの目標が持てる」、「他校の児童と競い合える場として存続してほしい」、「児童や教師の負担軽減の対策をとって継続してほしい」などの意見がありました。廃止の意見としては、「各学校でマラソン大会やPOPラン等が同時期にあり、成果を試す場面はある」、「朝練など教師の負担が大きい」、「小規模校で選手の選出が難しい」などの意見がありました。また、校長会の中では、「一部の児童だけが参加しているので、児童全体の基礎体力の向上につながるとは考えにくい」とのご意見もいただきました。

継続する場合には、教職員並びに児童の負担軽減を図りながら行うことが可能なのか考える必要があります。また、廃止するにあたっては学校の負担を増やさず、体力向上や運動意欲の向上が図れる取り組みを行いたいと考えております。教育委員の皆様にご意見を伺えればと思います。

《報告第3号に対する質疑》

片岡委員：朝練については、やはり、子どもを朝早くに学校へ行かせるため、親の負担があるとは思いますが。通学に時間がかかる家庭だと、子どもが朝6時半には家を出られるように、朝ご飯を食べさせて、支度をさせるということになります。先生方についても、朝早くに登校して準備をされるということになるので、小規模校では特に負担があると思います。ですから、朝練はやらなくてもいいのではないかなと思います。

議 長：かつて、体育主任をしておりましたが、私は、放課後の練習はやらずに朝練だけ行っていました。放課後は、学級で子どもたちに勉強をさせたりだとか、委員会活動やボランティア活動等をさせたりだとかしておりました。朝だけは活動がないので、私も早く学校へ行って、子どもたちを20分だけ預かりまして、中身の濃い練習を行うということ、半年、毎日続けました。小規模の学校でしたが、成田市のロードレース大会でトップレベルの成績で走ることができました。ですから、やりようだと思います。あと、一年を通じて全校で走る機会を持っていました。このように、特に良い成績を目指すのではなく、何か継続的な取り組みをして、健康な身体づくりをする、みんなで一緒に走ることを楽しむということ、第一目標にして、その先に、ロードレース大会があるというふうにご考えておりましたので、60人以上の子どもを私一人でみていましたが、私としては何の苦もありませんでしたし、子どもたちも楽しみにしていたと感じました。ただし、今は環境が昔と違いますので、なかなか難しいのだろうなと思います。また、資料の中で、「合唱との兼ね合いで参加するのが難しい」という意見がありますが、これは、ロードレース大会に対して合唱を優位に捉えているということだと思います。一方で、いやいや、合唱も大事だがロードレース大会の方が大事でしょうという考え方もあると思います。

佐藤委員：私自身はマラソンが好きではありませんでした。それでも、教育長もおっしゃりましたが、ロードレース大会の廃止を希望する考えの中に、合唱の練習をするからロードレース大会の練習時間がないという意見がいくつか見られますが、何か違うような気がします。子どもたちの中には、走ることで活躍したいという子どもが何人もいるはずだと思います。そういった子どもたちのための活躍の場を用意するということは、必要なのかなと思います。

高木委員：ロードレース大会については、冬の朝の暗い中、6時20分ごろに子どもを登校させたという思い出があります。また、夏はミニバスをやったり、冬にはマラソン大会も学校であったりします。あと、今は綱引き大会の練習も10月くらいから行ってい

ると聞いています。いろいろな行事が重なっていたりしますので、子どもたちを凄く忙しくしていることを考えると、各学校の現場の先生方が判断した意見を尊重して、ロードレース大会の廃止を希望する意見が多いのであれば、私は廃止としていいのではないかと思います。

議長：ありがとうございます。3人の委員さんからご意見をいただきましたので、参考にさせていただきます。また、現場の先生方と話し合いをしながら、今後の方向性を決めてほしいと思います。

報告第4号 「新型コロナウイルス感染症対策のための小中義務教育学校の対応について」

藤田教育指導課長：

報告第4号 新型コロナウイルス感染症対策のための小中義務教育学校の対応について、ご報告いたします。2月27日、安倍総理から全国の小中高等学校の休校の要請を受け、成田市の公立学校につきましては、3月4日から3月13日まで市内小中義務教育学校を休校いたしました。休校期間中は、小学校1年生から3年生までと特別支援学級の児童で家庭において対応することができない児童に対し、各学校での預かり自習を行いました。預かり自習を希望した児童は273名で、初日の3月4日は、172名が学校で過ごしました。また、592名の児童が児童ホームで過ごしました。

また、3月16日には、児童生徒、学校職員並びにそのご家族の皆様にも新型コロナウイルスに感染された方は一人もないこと、児童ホームや保育園は開設中であることから、学校においてもでき得る限りの感染予防策を講じながら児童生徒の活動を行うことは可能ではないかと判断して、市内公立小中義務教育学校を再開いたしました。

再開にあたっては、「閉じられた空間で、長時間の活動を行ったり、児童生徒同士が近接して話し合うような状況は極力生じさせないように努める。また、児童生徒並びにそのご家族に発熱や咳などの症状がある時は、その旨学校に連絡し、登校を控える」を基本原則として、次の6つの取り組みを示し、感染防止に最大限努めながら再開いたしました。

1. 休み時間ごとに教室内の換気を行い、新鮮な空気を室内に入れる。
2. 教室内でのグループ学習は行わず、全員が正面黒板等一方向を見るような位置で学習する。
給食時の机の配置も同様とする。
3. 体育は体育館では行わず、校庭など、校舎外での学習とする。
4. 音楽の合唱や合奏、家庭科調理実習の授業は行わない。
5. 登校後や外から入室するとき、また給食の前など必ず手洗いをを行う。
6. 授業は、原則5時間授業とし、部活動は行わず下校とする。

再開当日の児童生徒の欠席は369名で、そのうち、感染すること恐れて登校を見合わせた児童生徒は100名おりました。昨日、3月24日の児童生徒の欠席は166名で、感染することを恐れて登校を見合わせた児童生徒は24名でした。

4月からの登校に際しても感染防止対策を行いながら、各学校と協力して、取り組んでまいります。

《報告第4号に対する質疑》

特になし

6. 教育長閉会宣言